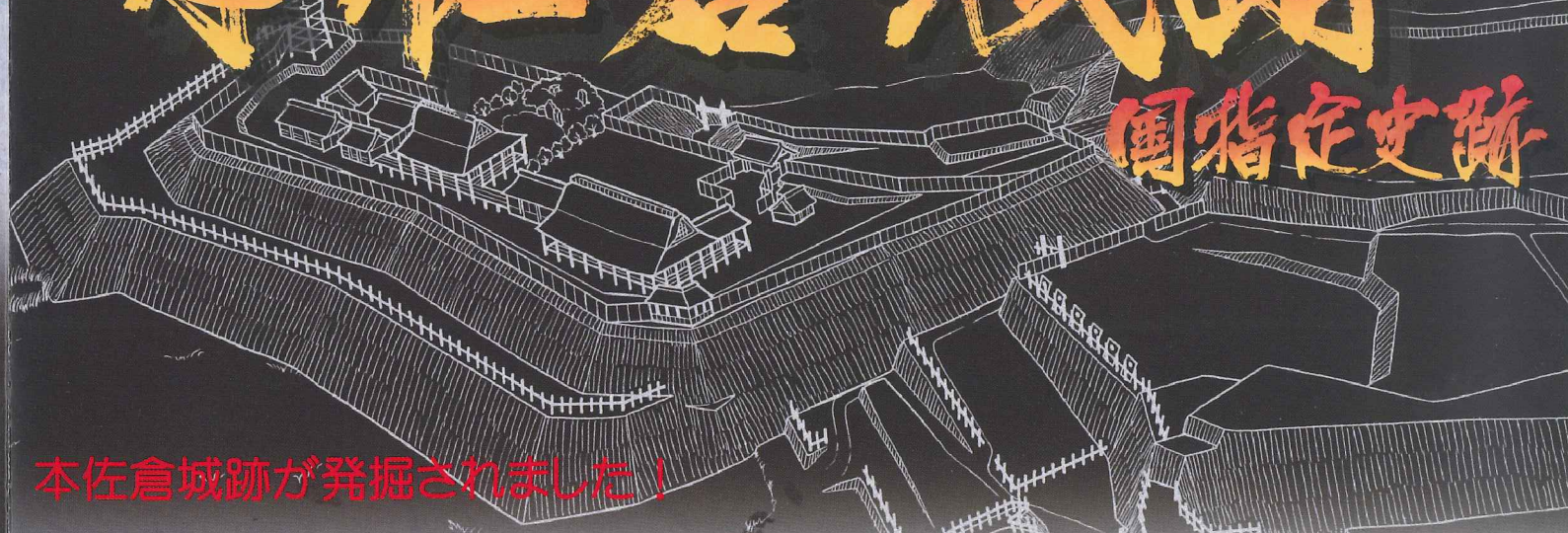


賑やかな 城跡

本佐倉城跡

国指定史跡



本佐倉城跡が発掘されました！

発掘調査の中心は城山郭です。本佐倉城跡の十の郭のうちの一の郭であり、城主のための空間と考えられる重要な郭です。ここでは、その城山郭の発掘調査について速報をお伝えします。

本佐倉城跡は今から約500年前(西暦1470年前後)に造られた中世戦国時代の城跡です。城の主は千葉氏一族です。9代(約10年間)の城主が本佐倉城跡を本拠地とし、下総国(現在の千葉県北部と茨城県南部)を治めていました。

発掘調査は平成15年から始められ、城山郭からは城主が執務や接待をする空間と考えられる主殿や会所と推測される大形の掘立柱建物跡、櫓跡、門跡、塀跡が見つかりました。また、城山郭の出入り口部である虎口から建物群が建つ内部まで、郭全体を調査しましたので城山郭の全貌が分かります。

発掘調査の終了後、城山郭は同じく調査の進む東山虎口から城山郭へ至るルート上を含めた史跡整備へと移行していく予定です。皆さんも見学される際は、ここにどんな施設があったのか想像しながら歩いてみてください。



◆国史跡本佐倉城跡
 所在 千葉県印旛郡酒々井町本佐倉
 千葉県佐倉市大佐倉
 交通 京成酒々井駅より 徒歩20分
 JR酒々井駅より 徒歩25分
 京成大佐倉駅より 徒歩10分
 東關道佐倉インターより 車10分

◆お問い合わせ先
 酒々井町教育委員会 生涯学習課
 〒285-0922
 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1
 TEL 043-496-5334(直通)
 佐倉市教育委員会 文化課
 〒285-8501
 千葉県佐倉市海隣寺町97
 TEL 043-484-6192(直通)

◆発行 酒々井町
<http://www.town.shisui.chiba.jp/>



瀬戸丸皿 ▶

瀬戸産(現在の愛知県瀬戸市一帯)の丸皿の破片です。大量に生産され、日本全国に流通した陶器です。素焼の陶器の上につす緑色の釉薬がかかったものです。当時の食卓や宴会などで多く使われ、重宝していたのではないのでしょうか。

瀬戸すり鉢 ◀

瀬戸産のすり鉢です。甕とともに台所道具のひとつです。現在のすり鉢より目が粗く作られていて、底に近いほうは磨滅して目が無くなっています。長く、大事に使われたのでしょうか。

貿易陶磁器 染付皿 ▶

中国や韓国、朝鮮、東南アジアなどで生産され、日本国内に輸入された陶磁器です。これは藍色の染料で描かれた玉取獅子図文皿の破片です。ちょうど皿の内側に描かれた獅子の顔の部分です。

茶臼 ◀

茶葉を挽いてお抹茶にするものです。茶の湯は当時、客人などをもてなす時にたしなまれました。本佐倉城跡の会所や茶室(推定)でも茶の湯が行われていたのでしょうか。
◀ この茶臼は上下の臼面に目のないタイプのもので。

礎石 ▼

建物の柱を建てる時の土台になった石です。写真に写っているすべてが一つの穴から見つかりました。礎石にはうっすらと柱を立てた跡が残っているものもあります。これを見ると柱は一辺15~20cmの角柱のようです。また、茶臼も沢山の礎石の破片とともにばらばらになった状態で見つかりました。

永楽通宝 ▲

戦国時代を通じて使われた代表的なお金です。中国の明から大量に輸入して、日本全国に流通した渡来銭です。



かわらけ ▲

城山郭でもっとも多く出土する素焼の土器です。大量に作られ、宴会などで一度に大量に使用し、一回で捨てられた使い捨ての食器といわれます。そのため比較的きれいな状態で出土します。また燈明皿として使われたものもあります。小さいもので径6cm、大きいものは15cm位のものもあります。

常滑甕 ▶

常滑産(現在の愛知県常滑市一帯)の甕の胴部と口縁部の破片です。甕は水や食料などを備蓄するためのものです。

天目茶碗 ▲

瀬戸産の茶碗でお茶道具のひとつです。茶臼で挽いたお抹茶を点ててこのお茶碗で客人をもてなしたのでしょうか。

小札(上) ▶

鉄の板に2列14孔があいているもので、甲冑を作る材料です。

鉄砲玉(下) ▶

直径12.3mm、3刃玉です。本佐倉城跡は一度も戦いの場にはなりませんでした。世は戦国時代、有事への備えは怠っていませんでした。



城山郭から出土した遺物は、ごらんのとおり破片のものが大多数を占めます。本佐倉城が廃城となった時にきれいに持ち去られてしまったのでしょうか。

賑やかな 遺物たち





門跡
幅約4.55m
通路跡
幅約300cm
城山に進入するための最後の門です。

③ 城山門跡

門跡と塀跡、木橋方向と城山内部に進入する2方向に分かれる通路跡が見つかりました。



参考：埼玉県 鉢形城



④ 木橋跡 (推定)



⑤ 主殿跡

城山郭のなかで最も大きな建物です。東西15.14m、南北11.4mの東西棟です。建物南東隅から地鎮具と思われるかわらけが見つかりました。



主殿
東西15.14m×南北11.45m
身舎 桁行10.1m 梁間7.88m
付属屋 桁行5.91m 梁間3.8m



参考：青森県 根城



⑥ 会所跡

会所 東西13.2m×南北11.1m
桁行約11.2m 梁間約13.5m
会所の離れ(茶室?)
3.6m×3.6mの建物
主殿の東側に渡り廊下によってつながるのが会所と考えられる建物です。城山郭の中では主殿に続き大きな建物です。



参考：福井県 一乗谷朝倉氏遺跡

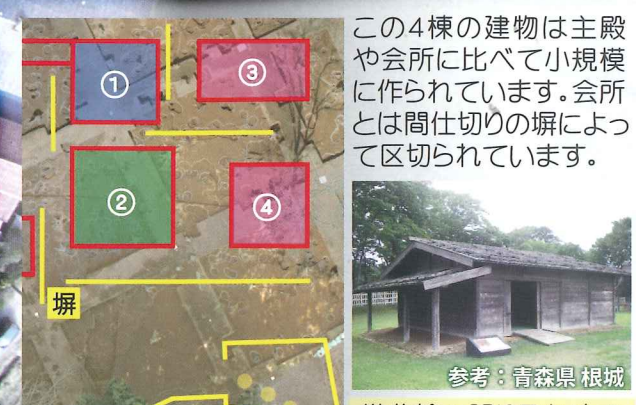


⑦ 庭跡

この庭は園池、築山、景石、砂利などで構成されていたと思われます。園池跡の範囲は砂が張られていました。また、その砂の範囲に沢山の不整形の穴が見つかり、景石の抜き取り跡ではないかと考えています。庭は現在のところ、おそらく水を使わない枯山水式のものとして推測しています。城主は、親しい客人とともに会所から庭を眺めながら宴会をしていたのでしょうか。



参考：岐阜県 江馬氏館跡



⑧ 建物4棟

この4棟の建物は主殿や会所に比べて小規模に作られています。会所とは間仕切りの塀によって区切られています。

① 5.4m×5.2m
約4.9mの渡り廊下により会所とつながっています。

② 6.9m×6.6m
焼土や炭化物が多く見つかり、台所の可能性があります。

③ 7.25m×3.85m **④ 5.35m×4.95m**
③と④の建物は、倉庫が便所などに利用された可能性があります。また、①～④のそれぞれの建物の間には間仕切り塀が見つかりました。



参考：青森県 根城



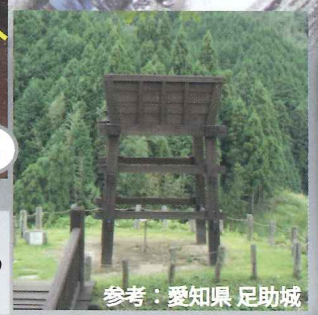
⑨ 櫓跡

“地鎮具”のかわらけ
櫓跡のほぼ真ん中で、左の写真のように合子状になって見つかりました。



出土状況

櫓跡 3.8m×3.8m
柱は一辺3本ずつ、計8本です。
櫓の周りには塀の柱穴が見つかりました。



参考：愛知県 足助城



② 城山虎口

城山に進入するための唯一の出入り口施設です。門と塀の跡が見つかり、門は主柱と控柱が付くものです。



参考：青森県 根城



① 大堀切

城山と奥ノ山を分ける堀切です。門と塀の跡が見つかりました。通路は砂で舗装されたものでした。また、大堀切には城山と奥ノ山を行き来する木橋が架かっていたと思われます。



参考：東京都 滝山城

眼目初覚めた
本佐倉城跡

城山郭

◆復元参考写真協力：八王子市・寄居町・飛騨市・福井市・豊田市各教育委員会・八戸市博物館
*注意：写真上で示している本佐倉城跡の復元案は現時点(2012.3.31)での想像図です。今後検討を重ね、変更される場合があります。